

がとれた時に混ぜて売られてしまったみたいです。この古々米と古米を混ぜて売った張本人がジュラ紀後半に起こった海底地すべりであります。

ジュラ紀後半に起こった海底地すべりはいろいろな質の岩石や時代の異なる地層をゴチャマゼにしてオリストストロームのように雑然とした堆積物を次々と海の底に積みあげていきました。このようにしてできた堆積物は後の時代に隆起し現在の日本列島の礎となりました。その礎を築いたジュラ紀後半の日本列島の姿は現在ゴミでどンドン埋め立てられている東京の夢の

島にどことなく似ているような気がします。この雑文のタイトルはここに由来しているのです。

もし中国に行く機会がありましたら是非このように話しかけてみてください。

「いまから1億数千年前のジュラ紀頃 お宅の国はたいへんでしたね。たくさんの恐竜がかっ歩いでいてさぞかし恐ろしかったことでしょう。その点日本は最高でしたよ。なんとって辺り一面は美しい海でときどき心地良く揺れたりしてまるで「夢の島」だったんですから……」

## ~~~~~ 地学と切手 ~~~~~



### シホーテ・アリン隕石落下 10年記念切手

P. Q.

われわれが手に入れることの出来る唯一の他の天体は隕石だった一人類が月に到着して帰還するまでは一。隕石の研究は地球の起源 地球の年令に重要な貢献をした。隕石は本来彗星と関係の多いもので流星として地球に降ってくる。地球全体では1日に1億個くらい質量として1千トンものが降り注ぐが地球をとりまく厚い大気が地上の生物を危険から守ってくれる。しかしときたますごい危険にさらされることもあるのでまったくの安心をしているわけにもいかない。

1947年2月12日に沿海州シホーテ・アリン山脈の中に隕石群が落下した。無人地帯だったからよかったものの日本本土とは日本海をへだててわずか数百キロメートルのところであり場合によってはあわや大惨事となるところだった。その後の調査では直径27メートルに達するものも含めて大小122個の隕石孔が見出され集められた隕鉄は合計23トンに達したという。10年後の1957年11月に隕石の落下10周年を記念して発行された

1985年1月号

のがこの切手であり隕石落下のすざましさがよく表わされている。

隕石孔と云えばアリゾナのものが有名であるが20世紀に入ってから地球が他の天体と衝突したことが2回ある。1回はこのシホーテ・アリンであり他の1回はツングースでともにシベリアであることも因縁めいている。

1908年6月30日の明け方シベリアのシンゲース川上流で突然閃光と大音響が起こり2,000平方キロにわたって森林がなぎ倒された。この衝撃による地震波と空気の振動は世界各地で記録された。この謎の衝撃について調査隊が派遣されたのは20年後の1927年である。調査隊は原始林の中でおびただしい樹木がなぎ倒されているのを見出したがこのあたりに隕石が落ちた証拠をつかむことは出来なかった。その後気の早いむきはUFO説で「ツングース爆発の正体は原子力エンジンを備えた宇宙船がシベリア上空で起こした事故である」と説えたりもした。

1958年からソ連科学アカデミーは大規模な探険隊をつぎつぎと現地に送りこみ1962年までに爆発は地上ではなく高さ数千メートルの上空で起こった事実を明らかにした。結局調査隊は「ツングース爆発の正体はあまり大きくない彗星の頭部が毎秒35~40キロメートルの速度で大気圏に突入したために起こった」と結論した。彗星の頭部のうちガスと水はたちまち蒸発しその結果一片のかけらも発見されなかった。この彗星は太陽の方角から地球に近づいて来たため大気圏に突入するまでその姿をみる事が出来なかったのだろう。爆発の規模はTNT火薬で40万トン広島型原爆の200個分にあたるといふ。